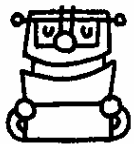


小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /
植物の体とはたらき / 理解シート

くきのつくりは、どの植物も同じなの



芽が出るとき、ふた葉が出る植物のなかまと、ふた葉
が出ないなかまは、くきのつくりもちがっているのさ。

植物では、体に必要な水や養分は根から ^{きゅうしゅう}吸収され、くきにある水や養分の通る管（道管という）を通過して、葉やくきの先などに運ばれます。ジャガイモやホウセンカの葉がついたくきを、^{しょくべに}食紅で色をつけた水にさしておくと、色水を吸い上げて、下の方から、くきに色がついてきます。やがて、葉の ^{ようみやく}葉脈にも色がついてきます。色がついたくきや葉を、たてや横に切ってみると、水の通り道がわかります。

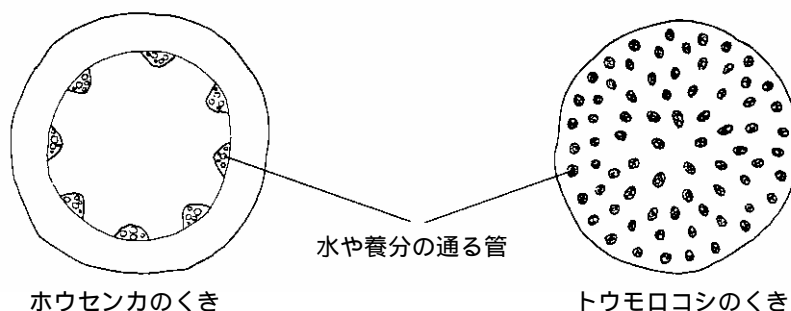
ジャガイモやホウセンカは、くきの中心からはなれたところに、水の通り道があるのがわかります。芽が出るとき、ふた葉が出るなかま（^{しやうるい}そう子葉類とよばれる）は、たいてい、ジャガイモと同じです。

イネやトウモロコシのように、ふた葉が出ないなかま（^{たんしやうるい}単子葉類とよばれる）は、水の通り道が、くき全体に散らばっています。

水や養分を運ぶ管と、栄養を運ぶ管は、^{なら}にた並び方をしている

葉でつくられたデンプンは、水にとけるものにかわり、栄養を運ぶ管（^{しかん}師管という）で、葉から根やくきの先、実、種などに運ばれます。この栄養を運ぶ管は、色水などで見えるようにすることはむずかしいのですが、水を運ぶ管と一組になったような形で、同じような並び方をしていることが多いです。

< 2種類に分けられるくきのつくり >



ホウセンカのくき

トウモロコシのくき